



スタートアップ企業の資金調達におけるノンバンクの役割と現状

2025年4月21日（月）

1. 弊社のご紹介

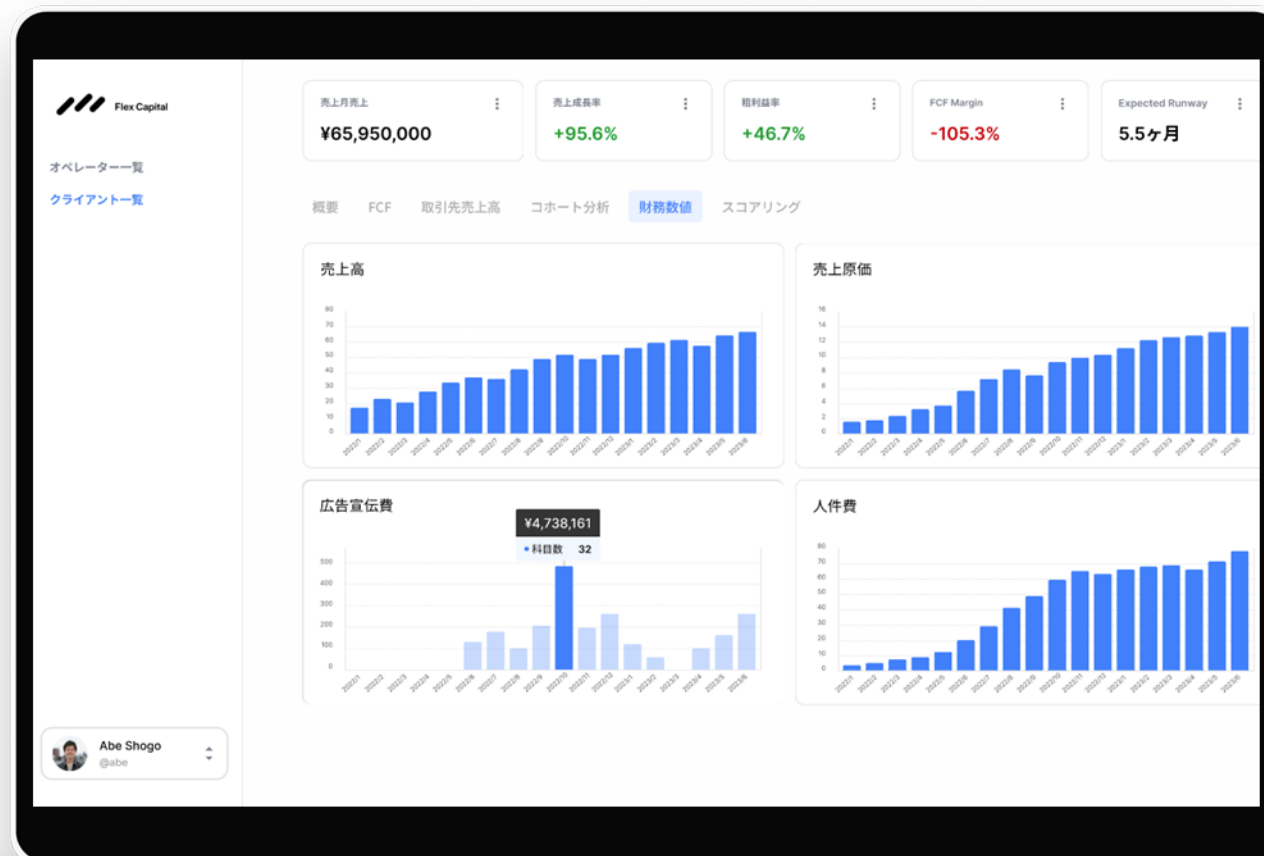
fivot

名称	株式会社Fivot
住所	東京都港区虎ノ門3丁目8-21 虎ノ門33森ビル 1階
従業員数	正社員：25名（業務委託を含めフルタイム：31名）
登録	第三者型前払式支払手段 貸金業 関東財務局長 第00738号 東京都知事(2) 第31827号
主要外部株主	  三井住友銀行  三井住友信託銀行           
受賞歴	東京都主催「東京金融賞2024 金融イノベーション部門」第1位（2025年2月） 総務省後援「ASPICクラウドアワード2024」にて『ベンチャーグランプリ』（2024年11月） Forbes JAPAN「日本の起業家名鑑400」に代表 安部が選出（2024年11月） 「FIN/SUM2024」インパクトピッチ審査員特別賞（2024年3月） Forbes JAPAN「次代を担う新星たち 2024年注目の日本発スタートアップ100選」（2023年12月）

提供プロダクト：Flex Capital

スタートアップ向けにデット性の資金を供給するサービスとして、Flex Capitalを展開。
API連携等により粒度の細かいデータを連携し事業性を柔軟にきめ細かく判断するなど、スタートアップに合わせた設計。

Debt Finance
for Startups



「データで深く、AIで速く」

Flex Capitalの強み

自らリスクを取って融資を行ってきたからこそ構築できたデータ基盤及び与信モデルが強みの源泉。

1 オルタナティブデータの活用

決算書などの従来データだけでなく、ウェブ上のデータや面談動画、ピッチ資料、銀行口座入出金、決済データ、仕訳帳などのオルタナデータを活用することで、リスクを見逃さず深い分析が可能



2 LLMを活用したデータ分析

自然言語処理を用いて、多様なテキストデータや非構造化データから洞察を引き出し、与信判断の質を向上。自然言語処理と数値解析を融合し、LLMが苦手とする数値的側面を克服、従来解析困難だった情報も鮮明に分析



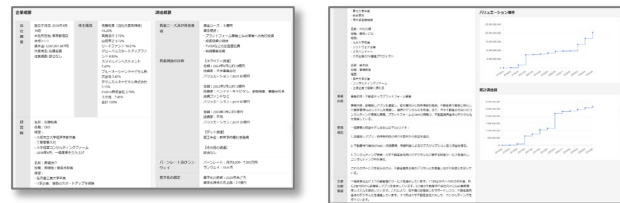
3 自社開発の機械学習モデル

膨大なデータを機械学習モデルによって解析し、信用リスクをより正確に評価。従来のルールベース審査に比べ、迅速にかつ柔軟な判断が可能



4 自動化とスケーラビリティ

オルタナデータを活用することでデータ量が膨大となるデメリットがあるところを、審査プロセス・分析の自動化を行うことで、人的リソースに依存せず大量の案件を迅速に処理可能



Flex Capitalの融資実績

サービス開始から4年間の間に90億円以上、250社以上のスタートアップ企業に対して融資を提供。
先述の与信モデルを活用し、デフォルトを抑えながら着実な実績を積んできた。

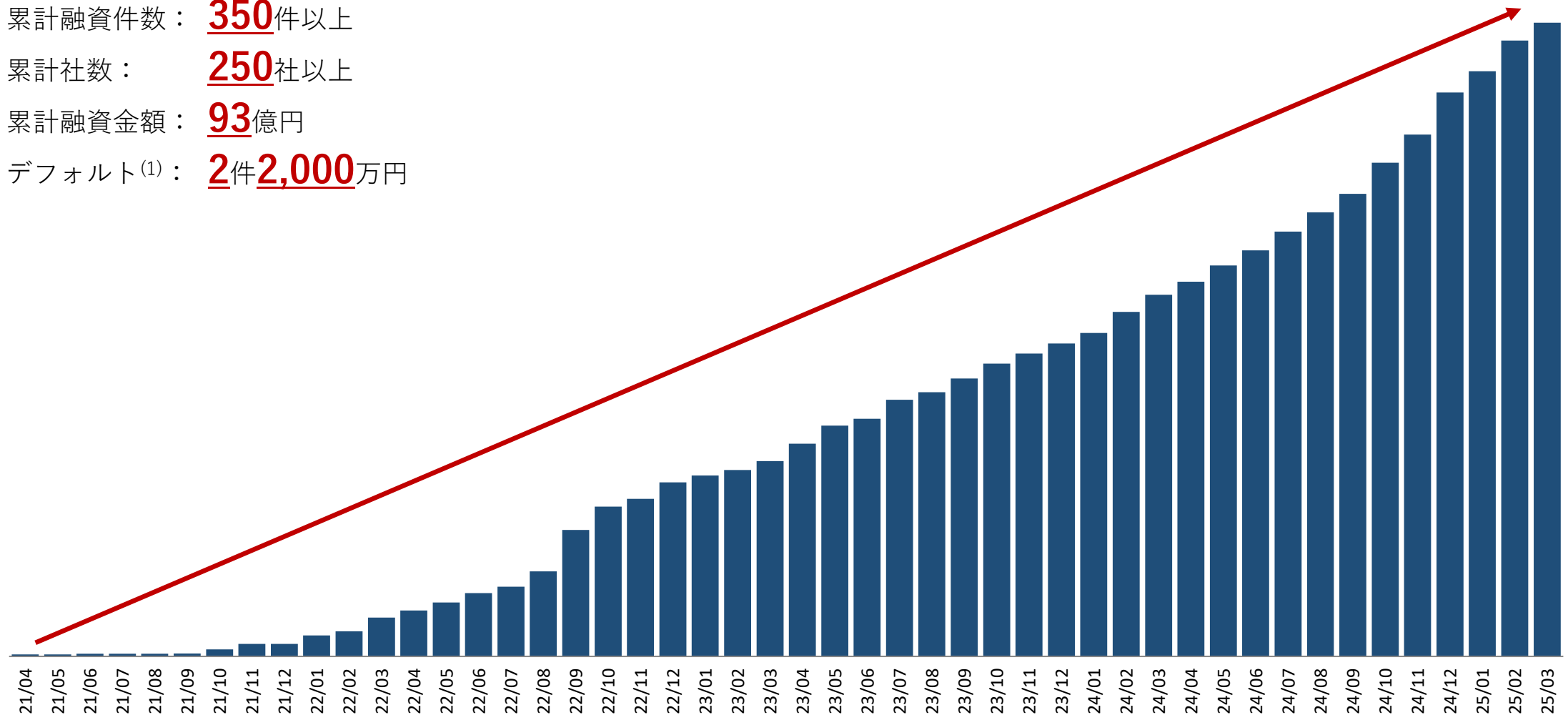
累計融資件数： **350**件以上

累計社数： **250**社以上

累計融資金額： **93**億円

デフォルト⁽¹⁾： **2**件 **2,000**万円

累計融資金額：93億円



2. ノンバンクによるスタートアップへの資金供給

スタートアップ向けに資金提供を行っている主なノンバンク

足元でノンバンク（ファンド形態を含む）のスタートアップ向け融資領域への参入は増加している。
銀行だけではどうしても埋められないリスクの余白をノンバンクが取りにいている構図。

DaiwaBlue

Vankable>

 Flex Capital


STARTUP DEBT FUND

UPSIDER Capital


funds⁽¹⁾
Startups

ファンド形態

ノンバンクがスタートアップに融資をする意義

素早く柔軟にスタートアップの深いリスクを判断して融資することは従来の銀行の得意とするところではなく、業態としてより柔軟な運営が可能なノンバンクがテクノロジーを駆使して融資をする意義はある。

柔軟性

- ノンバンクは銀行と比べ比較的柔軟な審査基準やスタートアップに合わせた与信モデルを特化して作りやすい
- 銀行と比べ融資基準に対する規制はゆるやかであり、リスクを柔軟に取りやすい

スピード

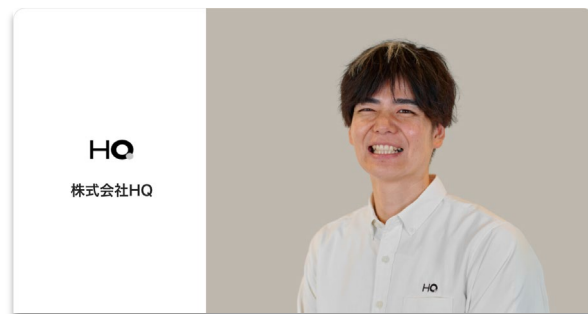
- スタートアップが求めるスピード感は「●か月」ではなく「●日」の水準であり、素早い意思決定が求められる
- 財務専任の人材（CFO等）がまだ不在である場合に、複数の銀行と数か月間のやりとりをするのは負荷が高い

テクノロジー

- 銀行と比べ、融資審査にAIをはじめとした先進的な手法を取り入れやすく、デジタルでのデータ提供に慣れているスタートアップと相性が良い
- 銀行にとってはまだスタートアップ融資は規模として小さく、大規模なシステム投資に見合わない

銀行単独では取り組みづらいスタートアップ企業へ、素早く柔軟な資金提供が可能

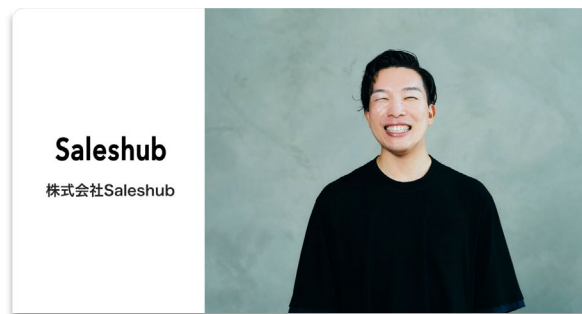
3. 借り手企業の声



ステージ：シリーズB

利用メリット：スピード・柔軟性

コメント：融資によりランウェイに余裕が生まれ、事業により集中することで進捗を生み出し、シリーズBの調達につながられた。



ステージ：シリーズA

利用メリット：株式希薄化なし

コメント：利率は銀行と比べ高いため、コストが高いのではないかと議論があったが、ダウンサイドシナリオを考えるとキャッシュを維持しながら投資を継続できることにメリットがあった。



ステージ：シリーズC

利用メリット：資本コスト最適化

コメント：スピードが速く、資料提出等の手間もかからないのありがたい。銀行借入はエクイティ調達直後の資本が厚いタイミングで使う形が基本。



ステージ：プレシリーズA

利用メリット：スピード・柔軟性

コメント：このフェーズの起業家のマインドは、どれだけ良い説明を受けていても「着金するまで何も信じていない」というのが本音だが、スピーディーに調達できて企業生命が繋がった



ステージ：シリーズA

利用メリット：スピード・柔軟性

コメント：本社が米国であるが事業の実態を理解してもらい柔軟に対応してもらった。ノンバンクだと条件面など厳しいコミュニケーションをされるかと身構えたが、良い意味でイメージを覆された。



ステージ：シリーズA

利用メリット：スピード・柔軟性

コメント：事業提携後のプロダクトの大口発注によって、どうしてもキャッシュが薄くなるタイミングあり、素早く手当をして発注を止めない必要があったところを素早く提案してもらいありがたかった。